おかえり サツキ

日本で最初に生まれたウォンバットの「サツキ」が、昨年12月に肺炎で死んでしまいました。現在、国内で飼育されているウォンバットも非常に少なくなり、五月山動物園ではウォンバットをもっと身近に感じてもらえる取り組み「ウォンバット ドリームプロジェクト」を進めています。

問い合わせは緑のセンター（☎752・7082）

ウォンバットが池田にやってきた

本市とウォンバットのかかわりは、平成2年のオーストラリア・ローンセストン市との姉妹都市提携25周年のときに3頭のヒメウォンバット（「ワイン」「ワンダー」「ティア」）が親善大使として池田にやってきたことから始まります。3頭のウォンバットはずんぐりとしたかわいらしい姿で、一躍動物園のスターとなり、「池田の顔」といわれるまでになりました。

そして、4年にはワインとワンダーの間に「サツキ」が誕生します。飼育されたウォンバットの繁殖は非常に困難とされ、サツキは日本で初めて繁殖に成功したウォンバットとして注目を浴びることになりました。さらに、翌5年には「サクラ」も産まれました。子宝に恵まれ、家族仲

フク（雄、8歳） 警戒心が非常に強いため、飼育員でも近づけようとしないところがあります。野生的な部分は魅力的です。

ワンダー（雌、23歳） 性格はとても温厚です。でも、ちょっぴり憶病で繊細な面もあります。巣穴に逃げ込むと、なかなか外へ出てきません。

ワイン（雄、23歳） とても人懐っこく好奇心旺盛でみんなに愛されるキャラクターです。飼育員を見かけるとすぐに近寄ってきます。

良くしばらくは平穏な時間が続きました。

新しい仲間を待ち望む声

そんな幸せいっぱいのウォンバットにも思わぬ別れがやってきます。ティアとサクラが死んでしまうのです。19年には「フク」と「アヤハ」がローンセストン市からやってきましたが、さらにアヤハとサツキも死んでしまいました。

今ではワイン・ワンダー・フクの3頭だけになってしまいましたが、ワインとワンダーは高齢となっているので、新しい仲間が待ち望まれます。しかし、ウォンバットは絶滅の恐れがあるために、オーストラリア国内の野生動物保護法で輸出が制限されているので、新しい仲間を迎え入れることは非常に困難な状態にあります。

未来につなぐ プロジェクト始動

同園以外でもウォンバットの高齢化が進み、現在日本にいるウォンバットは9頭だけになってしまいました。

このままでは国内ウォンバットの存亡にかかわることから、五月山動物園では新しい取り組み「ウォンバット・ドリーム・プロジェクト」を立ち上げました。

このプロジェクトは、みんなに愛されているウォンバットを「これからも大切に残したい」という気持ちから始めたものです。今年はNPO法人大阪自然史センターに協力を依頼し、大切なサツキをいろいろな標本に残すという取り組みを行いました。

これからも「五月山動物園＝ウォンバット」というイメージを広めていくためのプロジェクトを進めていきます。ウォンバットのいる「世界一♡のある動物園・五月山動物園」としてのさまざまな活動に、どうぞご期待ください。

国内のウォンバット

動物園名	ウォンバット名
五月山動物園	ワイン（雄）、ワンダー（雌）、フク（雄）
多摩動物公園（東京都）	チューバッカ（雄）
金沢動物園（神奈川県）	ヒロキ（雄）
茶臼山動物園（長野県）	スミレ（雄）、モモコ（雄）
東山動物園（愛知県）	ワレス（雄）
ひびき動物ワールド（福岡県）	ゴロ（雄）

展示ギャラリー「アップル♡（アイ）ランド」開設

五月山動物園内に展示ギャラリー「アップル♡ランド」を開設しました。

同ギャラリーはウォンバットの生息するタスマニア島がりんごの形に似ていて、「アップルアイランド」という別名で親しまれていることから名付けられたものです。

ウォンバットに関連するものからヒツジ・シカの角、エミューの卵まで、さまざまなものを展示しています。リンゴの看板が目印の同ギャラリーに、ぜひ一度お越しください。

ウォンバット ドリームプロジェクト

ウォンバットをもっと身近に感じてもらおうと、今年はワークショップと骨格標本作りを行いました。現在は塗り絵の製作や新しいワークショップなども企画中です。これからも楽しい企画を行っていきますのでご期待ください。

ワークショップ

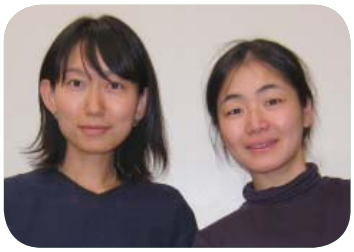
皆さんにウォンバットの愛らしさを知ってもらうため、ワークショップを開催しています。参加者らにはウォンバットクイズを出題し、足や鼻、おなかの袋がどんな形なのかを実際に標本を触ったり、動物園で観察したりします。また、普段は見ることのできない足の裏のレプリカを作ることで、ウォンバットを身近に感じることができます。

骨格標本作り

大阪市立自然史博物館等で標本を作製している米澤里美さん・西澤真樹子さん（NPO 法人大阪自然史センター所属）に骨や動物のお話をしてもらいながら、「骨洗い」「骨格標本の組み立て」「仕上げ」の一般公開を行いました。

動物園でウォンバットのような希少な動物の骨格標本作りを公開する取り組みは珍しいものです。

骨格標本を通じて伝えたいもの



米澤里美さん・西澤真樹子さん

動物園での新しい試みとなる骨格標本作りの公開は、生前のサツキを良く知るファンの方がご覧になって不快に思われないかと心配もありました。それもそのはず、みんなに愛されていたサツキの骨を洗ったり、組み立てたりするのですから…。それでも、皆さんから「大切な取り組みですね」と言っていただいたり、私たちの知らない元気なころのサツキのお話を聞くことで、私たちは勇気づけられました。

ほかにも、なめし皮や足型なども作製しました。それらを見ることで、より深くその動物を知ることができます。人も含め動物たちは、暮らしにあった形をしています。穴を掘って生活するウォンバットの前足の骨はモグラのように太くて短い形をしています。また、穴の入り口から侵入した天敵をお尻でガードする行動が知られていますが、お尻の皮膚は大変分厚く、毛も硬くて丈夫です。

近年、人の生活の影響を受け、野生のウォンバットの数が減っています。動物園で飼育されているウォンバットや展示されているサツキの標本を通して、ウォンバットの魅力や命の不思議を知り、野生での暮らしにまで思いをはせていただきたいと思います。そして、ウォンバットを守り、共に生きていこうという気持ちが、一人でも多くの方に芽生えることを願っています。

おかえりウォンバット

五月山動物園ではサツキの１周忌に合わせて、12 月１日㈯に「おかえりウォンバット」をアップル♡ランドで開催します。

同イベントではサツキの骨格標本の完成した姿や毛皮標本などを披露します。また、来場者には、もれなく同園特製のバッジをプレゼントします。

当日までのお楽しみだよ♪